米子市二本木316－1　米子松蔭高校経友会広報担当　TEL0859－27－0421
学校ホームページ　http://www.yonagoshoin.ed.jp
→「在校生・保護者・卒業生」→「経友会情報」

ごあいさつ

経友会会長　鈴木雅美

卒業生の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。保護者の皆様には心よりお祝い申し上げますと共に、校長先生並びに諸先生方のご功労に対し改めて敬意を表したいと存じます。

いまからちょうど三年前、場所も同じこの体育館で皆様の入学式が行われましたときも、私は来賓として参列させていただきました。それから今日までの皆様のご努力が見事に実を結んで、いまここに卒業の日を迎えられ希望に輝く皆様のお顔を拝見いたしまして、心からのお祝いの言葉を申し上げずにはいられません。

皆様の中には卒業後すぐに社会に出て働かれる人もあるでしょうし、進学され大学その他の学校で学ばれる人もあるでしょう。いずれの道に進まれるにしましても、皆様の前途は洋々として希望に満ち溢れたものであります。若い人たちは無限に成長する可能性を持っています。その可能性を広げ、たゆまぬ努力を続けられますことを心より願っております。皆様が自分の将来を切り拓いていくことは、皆様の力となるばかりではなく、皆様を慈しみ育ててくださったご家族の皆様や皆様を教え導いてくださった諸先生方など、今日まで皆様を支えてくださった多くの方々のお気持ちに応えることになるのです。

今日は卒業の日であるのと同時に新たなスタートの日でもあります。今日から気持ちを新たにして、次なる目標にむかって力強く歩み出してください。次なる目標へむかっていく道は決して平坦ではないかもしれませんが、皆様の若い力と努力で必ずや乗り越えることができると信じております。皆様の今後の人生が有意義で実り多きものとなりますようお祈り申し上げます。

【経友会（同窓会）】
本部　米子松蔭高等学校内
支部　関西支部（大阪）
　　中京支部（愛知）

経友会会員の皆様へ

学校長　佐伯友茂

経友会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より本校の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

はじめに、昨年夏に本校野球部が第九九回全国高等学校野球選手権大会に出場しましたが、経友会長様をはじめ会員の皆様より物心両面より多大なご支援・ご声援をいただき、衷心よりお礼申し上げます。県大会から甲子園大会に至るまで、多くの卒業生の皆様から応援をいただき、選手にとっては大きな力となったことと思います。本校にとりまして甲子園出場は十七年振りで、三回目の夏の甲子園出場となりましたが、校名が米子松蔭高等学校となり初めての出場で、新たな歴史を刻むことができ、これまで支えてくださった多くの皆様、そして何より頑張ってくれた野球部の監督はじめ選手の皆さんに感謝申し上げたいと思います。私も甲子園球場において、応援に来てくれた県外在住の卒業生と何十年振りに会うことができ、本当に懐かしく嬉しい思い出ができました。

今年度は214名が卒業しますが、この度の卒業生を含めて本校卒業生の総数が19,169人となり、大台の2万人が近づいてきています。このように多くの卒業生が本校を卒業し、地元をはじめ様々な地域で活躍しています。昨年十一月に伯友会（鳥取県西部地区高等学校同窓会）が開かれましたが、私も参加させていただき、多くの卒業生の皆様がお元気でご活躍の様子を伺い、本当にうれしくまた心強く感じました。今年度の卒業生も先輩に続き、社会において力強く生きて、社会に貢献し、活躍してくれることを期待します。

生徒たちは、様々な場面で今年度も活躍をしてくれました。野球部の甲子園出場以外では、体育部で男女ソフトテニス部・剣道部男女・体操部がインターハイに出場し、文化部では美術部・合唱部・バトントワリング部・ワープロ部・書道部と数多く全国大会に出場し活躍いたしました。またカヌーで本校3年生が世界大会に2年連続出場し、そしてチーム全員が本校生徒で構成されていますガイナーレ鳥取ユースU－18が、日本クラブユースサッカー選手権においてベスト16という輝かしい成績をあげました。さらに春の選抜大会に剣道部男女・女子ソフトテニス部・男子卓球部が出場を決めています。今後も米子松蔭生の活動にご声援いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、来年度の入学生から商業科を廃止し、オール普通科となります。本校の新たな歴史がスタートいたしますが、建学の精神『社会に真に役立つ実践的人材の育成』を受け継ぎ、さらに発展させていく所存です。今後とも経友会の皆様のご支援とご指導を賜りますようお願いいたしますと共に、経友会の益々のご発展と皆様のご多幸を祈念いたします。

平成30年度より役員をお願いする方々のご紹介

山根 奈々　様（平成３年卒業）

私は現在、洋食屋「ｎｉｋｅ」（彦名町本店・米子駅前店）を夫婦で経営しております。多くの卒業生の皆様にもご来店いただき、母校の懐かしい思い出話に花を咲かせています。

今夏の甲子園大会にも応援へ行き、後輩の皆さんに感動をいただき、私にとっても忘れられない思い出になりました。

これからも同窓生の輪のつなぎ役になれるよう頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いします。

上田 浩美　様（昭和54年卒業）

私は米子市安倍でカーセンス／西部ホンダ販売（有）を営んでおります。会社では車、バイクの販売整備を通じて地域の皆様に支えてもらい、日々頑張っております。

経友会会員相互の交流と親睦を図り、皆様方と力を合わせつつ、社会において活躍しておられる同窓生の皆様のご協力をいただきまして微力ではございますが、温かいご支援をいただきまして一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。

17年ぶり夏の甲子園へ

野　球　部

７月27日、地元どらドラパーク米子市民球場で行われた第99回全国高等学校野球選手権鳥取大会の決勝戦において米子東高校を５－２で下し、17年ぶり３回目の夏の甲子園出場が決まりました。現在の校名「米子松蔭」となってからは初の甲子園出場となりました。

今大会では、開会式直後の第１試合、開幕戦から登場し強豪の鳥取商業高校と対戦、序盤リードされながらも笠尾監督は「５点勝負となる」という読みで冷静に試合を進め、５－３の逆転勝ちで２回戦に進出しました。２回戦の相手は昨秋から県内公式戦無敗で、春の中国地区優勝校、優勝候補№１の鳥取城北高校。これまでの公式戦２試合の対戦は2試合とも完封負けを喫していた相手でしたが、１回の裏に４番深海君（３年）のタイムリーで先制するとその後も打線がつながり一気に４点を先制しました。先発の辰己君（２年）も冷静にテンポ良く打たせてとるピッチングで試合をつくり、６－２で大金星ともいえる勝利を収めました。この２試合で一気に波に乗り、準々決勝は鳥取中央育英高校を13－０の５回コールド、準決勝の八頭高校戦では８－２で再び逆転勝ちを収め、２年連続の決勝進出を果たしました。

決勝戦の米子東高校戦は２回の裏に一気に４点を先制して有利に試合を進め、最終回の満塁のピンチではレフト津島君（３年）の好判断の補殺プレーが出て相手の反撃ムードを断ち切り、見事に勝利を収めました。

決勝戦　甲子園出場を決めて校歌を歌う選手達

大応援団の声援の下 甲子園でも躍動

８月７日に開幕した夏の甲子園大会では大会４日目の第４試合のくじを引き、春の選抜大会優勝校の大阪桐蔭高校との対戦となりました。１日順延となった後の８月11日、17時10分にプレーボール。大阪桐蔭高校打線は失投を逃さず、つなぐ意識を持ちつつ強い打球を飛ばし、初回から得点を重ねられてしまいました。

結果、１－８で敗退しましたが、本校も終始ビッグイニングをつくらせず、無失策で持ち味を発揮しました。アルプス席を埋めた４千数百人の応援団、４万７千人の大観衆の中でプレーができたことは部員たちにとって大きな財産となったと思います。最後になりましたが、暑い中大きな声援を送ってくださった皆様、応援本当にありがとうございました。

アルプススタンドを埋め尽くした本校の大応援団

秋季県大会 10 年ぶりの優勝
２年連続で秋季中国大会出場

秋季中国大会　瀬戸内高校（広島）戦

９月23日から行われた秋季鳥取県高校野球大会では、２回戦から登場し、米子高専と初戦を戦いました。新チームの硬さが見られましたが何とか６－４で振り切り、ベスト８に進出しました。準々決勝では投打がかみ合い鳥取中央育英高校を８－１の７回コールドで下し、続く準決勝では鳥取商業高校に１－０という緊迫した試合をものにし、２季連続で決勝戦進出を果たしました。決勝戦では鳥取城北高校と対戦し、４－１で勝利し、10年ぶりの優勝を果たしました。

２年連続の出場となった秋季中国大会では、要の守備が乱れ、瀬戸内高校（広島）の逆らわないバッティングと執念を感じる「つなぎ」の打線、４番打者の連続長打か絡み大敗を喫しました。これを糧に、来シーズンに向けて練習を積み重ね、一回りも二回りも大きくなったチームになるべく励んでいます。これからも応援よろしくお願いします。

OBも全国の舞台で活躍

大学野球の全国の舞台でもOBが活躍しました。京滋大学野球連盟の春季１部リーグ戦において、川瀬航作さん（平成26年度卒業）が主戦を務める京都学園大学が２季連続15度目の優勝を果たし、全日本大学野球選手権（６月東京ドーム）へ２年ぶりに出場しました。川瀬さんは春季リーグ戦で３完封勝利を含む無傷の６勝を挙げ、チームの優勝に大きく貢献しました。全国大会では、初戦の大阪商業大学（関西６大学野球連盟）戦に１対２で惜しくも敗れはしましたが、先発登板した川瀬さんは、９回途中９安打１失点と好投しました。来年度は大学最終学年となり、さらなる飛躍が期待されます。

全国の舞台で活躍するOBの川瀬さん

男女アベックで
全国選抜大会へ

剣　道　部

平成29年12月23日に鳥取県立武道館で行われた全国高校剣道選抜大会鳥取県予選会において、男女アベック優勝を果たし、３月27日、28日に愛知県春日井市で開催される全国選抜大会への出場権を獲得しました。

男子主将 初鹿野 克幸くんのコメント

このたび、全国選抜大会鳥取県予選会で男女共に優勝することができました。男子は、新人戦で悔しい思いをしました。そこでチーム全員が、全力で稽古に励み、今回優勝することができました。全国選抜大会では、目標である全国ベスト８以上に向けて、一つでも多く勝ち上がれるよう頑張ります。

監　督 北堀 泉先生のコメント

第27回全国高等学校剣道選抜大会鳥取県予選において男子は２年ぶり、女子は７年連続の優勝をすることができました。

男子は、新人戦の準決勝で米子北斗高校に敗退し３位だったこともあり、今大会では挑戦者という気持ちでむかっていく試合ができました。準決勝では新人戦優勝の八頭高校に接戦で勝利し、決勝では米子北斗高校に３－０で勝利、優勝を手にすることができました。

女子は、新人戦優勝で自信がついてきたのか安定した試合運びで、決勝では県総体で負けている鳥取城北高校に勝利し７年連続優勝を勝ち取ることができました。

全国選抜大会では、１つでも上に勝ち上がれるようしっかり調整して行きたいと思います。

女子主将 池信 さくらさんのコメント

今回は７連覇がかかった試合ということでプレッシャーもありましたが、新人戦で優勝したことでチーム全員に自信がつき、堂々とした試合で優勝することができました。

全国の舞台に立つには、まだまだ個々の力が足りないので、全国で１つでも多く勝つために日々の稽古を全力で頑張ります。

大激戦の末、全国選抜大会への切符を執念でつかみとる

女子ソフトテニス部

平成30年１月13日、14日に広島県福山市緑町公園屋内競技場で行われた全日本高校選抜ソフトテニス大会中国予選会に県１位校として臨みました。各県１位校によるリーグ戦において、１日目、松江西高校（島根）に２－１、岩国商業高校（山口）に１－２、２日目に山陽女子高校（岡山）に１－２で１勝２敗となり、全国選抜出場にむけて勝利が絶対条件となる緊迫した最終戦を戦いました。最終戦は強豪、広島翔洋高校（広島）に対し、本校の２ペアが先勝し、２－１で勝利しました。結果、２勝２敗で岩国商業高校、広島翔陽高校と本校の３チームが勝敗で並ぶ大混戦となりましたが、得失ゲーム差により２位となり、全日本高校選抜ソフトテニス大会（３月27日～30日、日本ガイシスポーツプラザ（名古屋市））への出場権を見事に獲得しました。

主　将　荒巻 佐和さんのコメント

目標としていた優勝をすることはできませんでしたが、２位という結果で全国選抜出場を決めることができました。沢山の応援や先生方や保護者の皆さんの支えがとても力になりました。

自分たちがやってきたことは間違っていないとチームのみんなが感じたと思います。全国選抜に向けて、今大会以上の力を発揮できるようこれからも練習を信じてチーム一丸となり、日本一目指して頑張ります。

「ハイスクールジャパンカップ」への出場権を上山・川田ペア（２年）が獲得

１月に行われた鳥取県高校ソフトテニスインドア選手権大会において、上山優歩・川田季和ペア（２年）が優勝し、６月に北海道札幌市で開催される「ゴーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップ2018」に鳥取県代表として出場します。

上山 優歩（写真右）
川田 季和（写真左）　ペア

監　督　佐々木 寿介先生のコメント

今大会は中国選抜大会の一週間後という過密日程で、またインフルエンザの生徒もでてペアを変更するなど厳しい状況の中での大会でした。そんな中で急遽ペアを組んだ上山・川田ペアが普段の練習の成果を十二分に発揮し、失ゲーム０の完勝で優勝を果たしました。

当日試合に出ることができなかった選手や負けて悔しい想いをしている選手の分も、北海道で行われるハイスクールジャパンカップでは県の代表としての誇りを持って堂々としたプレーを期待しています。

日置 拓人くん（２年）が全国選抜大会へ

卓　球　部

日置 拓人くん（２年）が、３月25日～28日に福井県福井市で行われる「第45回全国高等学校選抜卓球大会」の男子シングルスの部に出場します。

全国選抜大会出場を決めた日置くん（写真奥）

監　督　池口 勝裕先生のコメント

日置くんは12月16日に倉吉体育文化会館で行われた「第45回全国高等学校選抜卓球大会鳥取県大会」において男子シングルスの部で優勝し、全国選抜出場を決めました。シングルスの部の予選は、学校対抗の予選１位と２位の学校の選手等を除いた中で行われます。日置くんは学校対抗で計８試合を戦った後に、シングルスの予選２試合を勝ち抜き、見事全国大会への切符を手にしました。決勝では、高校では勝ったことのない選手に接戦の末、３対１で勝利しました。連戦の疲れも見せず、最後まで攻撃的に戦うことができ、素晴らしい試合をしてくれました。

日置 拓人くんののコメント

全国選抜に出場できてうれしいです。県予選では一本一本集中してプレーできたと思います。団体でのインターハイ出場を目標に練習しているので、その成果が出たかなと思います。全国選抜では優勝を目標に頑張ってきます。